

心不全患者への専門的対応など、全ての循環器疾患に迅速に対応できる体制が整いました。今年度は循環器内科と消化器内科のスタッフが増員される予定で、それぞれの診療科は更にパワーアップし、医師会の先生方との連携も良くなったと自負しています。更に、内視鏡センターをリニューアルし、放射線科とは分けて新たに受付を作り、検査室を2室から3室に拡大しました。また、リカバリーチェア・ベッドの台数を6つまで増や

りんくう生まれの新しい命

私が病院長の時の話。地下2階駐車場に、長年使用しなくなった山ほどの物品が保管されていた。駐車場を有効に利用していくため、用度係の職員が何ヶ月もかけて、暑い中、汗だくで片付けてくれた。どれくらい片付いたかを見回りに行っ



た2019年4月25日のお話。総務課の倉庫として使われていた高い仕切りで囲まれた鍵付きの区域の横を歩くと、小さなニヤという小さな音が聞こえてきたように思い、同行者に何か小さな音が聞こえるねんけど話すと、確かに聞こえる。そこで、倉庫の鍵を開けてもらって中に入ると、ニヤという声が本当に聞こえ、探すと生まれたての眼も開いていない子猫が一匹見つかった。一匹だけかと思うと、さらに近くにも4匹の子猫を発見。産んだ親猫は見当たらず、横にあったベッドの上に親猫のものと思われる足跡が見つかった。えらいこっちゃと、猫用のミルクを買ってきて与えようとするも全く飲まず、途方に暮れた。これは直ちに獣医に見せるしかないと思い、段ボール箱(写真)に子猫を入れて、いつ

してお世話になっている甲子園の動物病院に急遽運んだ。一匹は眼もまだ開かず、低体温でもう死にかけて、獣医もこれは厳しいなと嫌な顔をされたが、2日間は5人の獣医に一匹ずつ預かってもらって、夜中も授乳をしてもらったため、何とか生き残り、3日目には我が家に連れて帰って、家内と一緒に授乳が始まった。眼も見えない子猫に授乳し、育てるのは初めての経験であったが、危機的状況を何とか乗り越え、眼も開き声も出せるようになった。幸いに3週間くらいで3匹と2匹はそれぞれ新しい飼い主も見つかった。家まで届けに行ったが、現在は大きくなって大変可愛がられているそうである。あの日にこれまで行ったこともなかった地下2階駐車場に行き、たまたま小さな鳴き声が聞こえたことがきっかけで、新しい命が繋がったのは本当に偶然の話で嬉しい限りである。ちなみに、我が家には現在猫7匹(全て捨て猫)(一時は猫9匹犬1匹)でニヤゲル係数は極めて高く、猫は人間よりも優先される。

年頭挨拶
病院長
(兼)副理事長・
患者サポートセンター長
松岡 哲也



「謹んで新年のご挨拶を申し上げます。」

昨年は、一昨年以上に新型コロナウイルスのパンデミックに翻弄された一年となりました。特に4月〜6月にかけての第4波においては、大阪府の要請に応じて新型コロナウイルス重症病床を15床(中等症病床と合わせて43床)まで増床しましたが、当圏域以外からの患者様で瞬く間に満床となる状況でした。このような事態を受けて、4月16日には止む無く「災害モード」での診療を宣言し、病院の総力上げての新型コロナウイルス感染症に対する診療体制に移行させていただきました。それに伴い、不急の入院や手術の延期を余儀なくされて、地域の方々には多大なるご迷惑をお掛けしました。そのような中においても、必要な診療提供の継続を心がけ、皆様方の多大なるご協力の御蔭もあって、この難局を大過なく乗り越えることができました。皆様方には、心から感謝申し上げます。

さて、9月に第5波による緊急事態宣言が解除されたから、新型コロナウイルス陽性者も順調に低下していましたが、変異株「オミクロン株」の出現により、その蔓延が危惧されています。新型コロナウイルス感染症の流行は、まだまだ予断を許さない状況にあります。当センターでは、どのような変異株であっても対応していく覚悟です。同時に地域医療の要として地域の方々に安心して頂ける医療を提供し続けることをお約束します。

本年も、皆様に納得して頂ける医療を届けるよう精励していく所存ですので、引き続きご支援のほどを宜しくお願いいたします。

松岡病院長のおすすめ

昨年の11月に鑑賞した映画を紹介させていただきます。9月に緊急事態宣言が解除されて、当院においても10月5日付で行動制限を少しだけ緩めて、感染対策の行き届いた映画館での映画鑑賞を許可しました。私も息抜きにと難波パークシネマで鑑賞した映画が、ソウルの女王アレサ・フランクリンの伝記映画「リスペクト」です。

アレサ・フランクリンは自ら自分の半生を描いた映画を企画し、自らを演じる主演女優に写真のジェニファー・ハドソンを指名しました。アレサ・フランクリンは、残念ながらこの映画の完成を待たずに2018年8月16日、享年76歳でこの世を去りました。黒人として生まれた少女が、幾多の困難を乗り越えて名声を掴んでいく物語です。タイトルのリスペクトは、日本語では尊敬と訳されますが、この映画の根底にあるものは「尊敬」のような高尚なものではなく、もっと日常的な「人を敬い、自分も敬われたい」というささやかな欲求のように思えます。

そして本映画で最も感動的なのは、ストーリーもさることながら主演のジェニファー・ハドソンの圧倒的な歌唱力です。ジェニファー以外のコーラス役の女優さんたちも、その声量、リズム感、歌唱力の素晴らしさ、ある時は囁くように、また語り掛けるように、そしてある時は激しく怒りをぶちまけるように、その感情豊かな歌唱力に圧倒され、感動のあまり自然と涙してしまいました。

最後に、アレサ・フランクリンのご逝去に対して「合唱」否「合掌(アーメン)」

映画 『リスペクト』



【公開】2021年(アメリカ映画)
【原題】Respect
【監督】リース・トミー
【主演】ジェニファー・ハドソン

年頭挨拶
看護局長
(兼)副病院長
鈴木 千晶



「新年あけましておめでとうございます。」

今年は、昨年からコロナワクチン接種が普及しはじめ重症化が抑えられるとのことで、変異株の出現がまだまだ脅威ですが、2年間の暗いコロナ禍から少し明るい兆しが見えてきている年明けとなったように感じます。

2か月前になりましたが11月30日は何の日かご存じでしょうか。「いい看取り・看取られ」の語呂合わせから厚生労働省が定めた「人生会議の日」です。もしもの時にどのようなケアを受けたいか、どのような最後を迎えたいか、何より、自分がこれからどう生きたいかを考え家族や身近な大切な人達と話さすきっかけの日とされています。11月30日と言わず、新年を迎えた今、自分がどう生きたいか日々どのように過ごしていくか話ができるとうれしいですね。当院でも、いろんななちよとした相談事から、これからの事を自分達では考えるのが難しいといった深い相談事まで、様々な方が看護師に気軽に相談できるような場を提供しようと現在準備を進めております。

一日一日を大切に、今年もよろしくお祈り致します。

鈴木看護局長のおすすめ

「山中教授、同級生の小児脳科学者と子育てを語る」

山中伸弥・成田奈緒子著
講談社 2021年10月



初めての育児本と表現されていますが、兎をどう育てるかというより、大人として、人としてどうあるべきか、なでなく社会人皆におすすど同級生との対談という形で書かれており、じっくり考えるべきことがスッと入ってくる、子育て中の人がけでなく社会人皆におすすめできる本です。

年頭挨拶
事務局長
家宮 久雄



「新年あけましておめでとうございます。」

約2年前に、新型コロナウイルス感染症が話題になった時には、いまだ収束していない状況は想定しておりませんでした。日頃の感染予防対策も定着し、ワクチン接種も進み、経口薬の開発もようやく兆しが見えかけてきた中で、今年は、いかに感染予防を継続しつつ、日常の生活を取り戻していくかを共に考え、実行に移していく年となりそうです。

そのうちのひとつですが、特定健診やがん検診等の受診を控えておられた方は、健康状態を確認する、万が一、病気が発見されても早期に発見できれば、ご自身の負担が軽くなるということを意識していただき、ぜひ、ご自身のために健診等を受診ください。また、よろしくお祈り申し上げます。

家宮事務局長のおすすめ

「永遠の0(ゼロ)」

百田 尚樹著
講談社文庫 2009年7月
※初版:太田出版 2006年8月



有名な本ですが、百田尚樹さんの「永遠の0」です。戦時中で自身が非常に厳しい状況におかれていても、主人公の祖父である宮部久蔵は、家族のことを思い、また、自分自身の考えを貫きとおす意志の強さを感じる人です。読んでみるうちに、自分自身の背筋がピンと伸びるような作品でした。機会があれば、ぜひお読みください。